

## 第七回定時総会

## 大庭会長挨拶

日本マテリアルフロー研究センター会長の大庭靖雄です。当センターの第七回定時総会の開催にあたりご挨拶を申し上げます。

本日は、暑い中ごようこそご参集くださいました。2019年以来久しぶりにご参集いただいて総会を開催できることを大変うれしく思います。

当センターは、2016年11月に設立総会を開催し、それ以来6年目を迎えています。発足当初52社であった会員数が、現時点では140社余りとなりました。サプライチェーンを構成する多様な産業分野の会員企業が参加され、活動の基盤が整ってきていると思います。実のところ、会員数を拡大する活動をさらに進める計画だったのですが、2020年当初からの新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、対面での活動を控えざるを得ず、その拡大が足踏み状態となっていることは残念であります。

しかしながら、大きく伸びる前に、かがんでぐっと力をためるように、このような中であって、当センターの発展のための体制づくりに力を入れてまいりました。

日本経営工学会との連携という合意を基に、経営工学の研究教育を行っている学者15名を当センターの学術研究員として登録しました。これらの学術研究員の研究成果と、会員の事業改善活動を連携させることを目指しながら、その前段階として、会員企業と学術研究員によるパネルディスカッションなどのパイロット事業を進めています。

事業開発推進会議の活動により、セミナー、講演などの対外的な活動を積極的に行うようにしてきましたし、オンライン技術を活用して、ロジスティクス検定合格講座などの教育事業や、アジアシームレス物流フォーラムや、アジア最大の物流展セマットアジアのオンラインツアーなども行いました。

本日の総会においては、そのような事業活動の報告、決算報告、体制の刷新のための役員人事などもご審議いただきます。

最近の状況を見ますと、新型コロナの第7波がまだ継続していますが、政府は新たな行動制限を課さないという立場であり、また、ワクチン接種が進んで来ていることから、いよいよ経済活動と感染症対策を両立させる時期が来たと思います。会員各位の参加をいただきながら、センターの活動を活性化してま

います。来年春には、ニューノーマルの時代に向けた物流機能の再構築を目標として、多くの方に会場においでいただく形でアジアシームレス物流フォーラムを開催することも計画しています。

このセンターには、行政関係者、学会の方、技術士包装物流会の皆様、中国機械工程学会の方などが、強い関心を寄せておられます。これらの方々の参加や協力を得ながら、研究活動を充実し、具体的な成果を出せるような活動を目指すこと、会員企業の新技術や、会員外の先端的な取り組みと会員とのマッチングを試みることなどにより、このセンターの機能を一段と強化して、会員企業に、そして社会に役立つ活動を進めたいと考えています。

本日の総会の審議を経て発足する新しい体制の元で、この2022事業年度が、さらなる発展の年となりますよう、皆様方のお力添えをお願いして、私の挨拶とさせていただきます。

有り難うございました。

以上